



だより



R8.2.3 Vol.37

たかが…されど…

高学年の劇「北針」では4年生二人の女の子がナレーターでした。演技しなくていいので一見、簡単そうですが…。今回の北針では87日間の出来事を30分に凝縮して演じました。当然、語りで時間と場面を進める必要が出てきます。その語りがいい加減だと、観客は、ストーリーがわからなくなってしまう。どう伝えるのか何度も練習しました。(台本! 朱で真っ赤です。)たかが語り、されど語りです! 加えて今回は、他の役もあり、一人5役!! 着替えを含めると、てんてこ舞いだったことと思います。演劇では主役に目が行きがちですが、役どころ関係なく**みんなが主役!**をめざした北針でした!



タイミング

1～3年生の発表もとっても可愛かったですね。練習期間中、舞台での発表練習をしながら、出番待ちの間も体育館の後ろの方で、フラフープやなわとびの練習に一生懸命取り組んでいる姿が印象的でした。ある子に「こんな感じでやれるかな?」と動きを提案しました。当然ですがはじめは、緊張もありぎこちないです…。「もうちょっとゆっくりできる?」「そうそう! もう少し間を取ってできる?」繰り返すことで、その仕草が板についてきます。

「おーすごい! もはや俳優さんレベル!」そう声をかけるともう得意満面でその演技はいつも完璧になりました。褒めるだけの指導は私は好きではありません。が、タイミングよく声をかけてやることで、子供は自信を持ちます。何事もタイミングが大事なあと改めて感じています。

四方山話真穴 ver2. 其の三十七(いかがでしたか?)

150周年記念学習発表会! 子供たち、生き生きとそして堂々と発表していたと私は感じました。いかがでしたか? 「150周年の記憶に残る発表にしよう!」と先生たちと話をし、指導にも熱が入りました。しかしこの学習発表会(学校によっては学芸会)も、働き方改革や業務改善の流れの中、簡素化したり、なくしたりすることが多くなっています。それはそれで一つのやり方です。ただ、私は演劇活動を通して子供の身に付く力がたくさんあると思っています。私が大切にしているのは「**子供たちが考える!**」ということです。例えばセリフについて、「こう言いなさい!」とはあまり言いません。セリフを覚えてきた子供に、「このセリフの裏にはどんな気持ちがあると思う?」と問いかけます。「寂しい気持ち」「怒っている!」「嬉しい気持ち?」そんな言葉が出てきます。「ならどんな言い方になると思う?」そう尋ね、セリフに気持ちを吹き込ませていきます。

そして本番、発表が終わった子供たちに「よかったよ!」と声をかけていると6年生の陽渚さんが、「いっちゃんが毎回、違う話しかけ方をするので、それに合わせるのが難しかったです。」と言ってきました。毎回違う話しかけをするいっちゃんも実はすごいのですが、それに合わせた返事をする陽渚さんにびっくり! 劇団で練習している人レベルのことをやっているんですね。子供の可能性って本当にすごい! と実感しました。これまでの経験を振り返ると、演劇に参加することで生き生きと表現し始めた子供をたくさん見てきました。その経験が自信になって日々の様子ががらりと変わっていった子供もいました。大人は演劇を経験したとしても、それはそれ、生活は生活と切り離していますが、子供はそうではありません。日々の学習や体験がより色濃く生活に影響し、成長していきます。子供たちがよりよい生活を送っていくためにチャンスはどんどん生かしていきたいですね。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思っています。